

令和4年度  
第2期上里町まち・ひと・しごと  
創生総合戦略  
評価シート

# 基本目標 1 町の資源を活かして、仕事をつくり、産業を盛んにする

項番	担当課	担当課による自己評価と今後の方針				KPI【重要業績評価指標】					上里町まち・ひと・しごと創生本部			上里町地方創生推進審議会		備考 【KPIの補足など】
		具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	KPI	最終目標 (R6)	R4 目標値	R4 実績値	達成度	本部評価	本部の意見	取組方針	審議会の意見	取組方針	
<b>(1) 民間企業の誘致・活性化による雇用の創出</b>																
<b>① 民間企業の誘致の推進</b>																
<b>ア. 上里サービスエリア周辺地区及び児玉工業団地の活性化</b>																
1	産業振興課・道路整備課	《道路整備課》 児玉工業団地線については、用地買収、工事発注を行い、進捗を図る。 神流リバーサイドロードについては、用地買収、工事発注を行い、進捗を図る。	《道路整備課》 児玉工業団地線の用地買収率は100%であり、整備率は75%である。 神流リバーサイドロードの用地買収率は100%であり、整備率は40.5%である。	順調	《道路整備課》 児玉工業団地線は、令和5年度開通を目指す。 神流リバーサイドロードは工事の進捗を図り、早期完成を目指す。 《産業振興課》 SA周辺や児玉工業団地への誘致は完了していることから、旧農工法地区への誘致を強化するとともに、SA周辺地区の拡大等、あらたな誘致候補地について調整を図る。	神流リバーサイドロード整備状況	工事	工事	用地買収工事	①大きく達成（数値目標の場合は100%以上）	順調	目標値に届いており、施策の進捗は順調である。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	本部の意見と同じ	継続	R8完成予定
		《産業振興課》 課題となっている旧農工法地区への立地優遇企業誘致の促進と賃貸による企業立地に対する支援が実施できるよう、令和4年4月に企業誘致条例施行規則の改正を行った。また、新規立地事業者2社に対して条例に基づく支援を行った。	《産業振興課》 令和2年度には工場立地法地域準則条例の制定（緑地面積率等の緩和）し、工場立地に向けた制度の拡充を図った。		児玉工業団地線の整備率	100%	50.0%	75.00%	①大きく達成（数値目標の場合は100%以上）	—						
					工場立地にかかる制度整備	制度整備	報告	報告	①大きく達成（数値目標の場合は100%以上）	—						
<b>イ. 新たな工業系土地利用の調査・研究</b>																
2	産業振興課	SA周辺産業団地の拡張について候補地の検討を行なった。	旧農工法地区、SA周辺産業団地の拡張、旧下水道処理場用地等を中心に誘致候補地の検討を行なうとともに、埼玉県企業局や企業立地課等関係機関との情報共有を図っている。	概ね順調	今後も、企業の立地意向に合わせ、候補地の調査等を行う。	研究の進捗	活動報告	進捗報告	進捗報告	②ほぼ達成（数値目標の場合は70%以上100%未満）	概ね順調	今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	本部の意見と同じ	継続	埼玉県企業局等と連携し情報を収集する
<b>ウ. 新規立地企業に対する奨励金の交付</b>																
3	産業振興課	令和3年度竣工の和菓子等工場に対し企業誘致奨励金を交付した。また、令和4年10月には町内に誘致した事業者の冷蔵倉庫が竣工し操業を開始している。 旧農工法導入地区への企業誘致を進めるため企業誘致条例施行規則の改正を行った。	令和元年度に企業誘致条例に基づく奨励金制度の充実（上下水道課入金）を行ったことに加え、令和4年には旧農工法導入地区等への企業誘致を進めるため企業誘致条例施行規則の改正（農工法地区、賃貸、文化財調査、業種制限の一部撤廃）を行うなど、工場立地に向けた制度の拡充を図っている。	順調	旧農工法地区への企業誘致にむけ情報収集やマッチングに努める。また、産業立地需要に対応できるよう新たな産業団地の設置について研究を進める。	上里町企業誘致条例に基づく新規誘致企業数	累計2社	累計2社	累計2社	①大きく達成（数値目標の場合は100%以上）	順調	目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	本部の意見と同じ	継続	—

# 基本目標 1 町の資源を活かして、仕事をつくり、産業を盛んにする

項番	担当課	担当課による自己評価と今後の方針				KPI【重要業績評価指標】					上里町まち・ひと・しごと創生本部			上里町地方創生推進審議会		備考 【KPIの補足など】
		具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	KPI	最終目標 (R6)	R4 目標値	R4 実績値	達成度	本部評価	本部の意見	取組方針	審議会の意見	取組方針	
<b>(2) 農業の担い手不足対策の推進</b>																
<b>①新規就農者に対する支援</b>																
4	産業振興課	農地の確保や機械導入、経営の安定など、新規就農の課題を解決するため、関係機関と連携した相談体制等により支援を行っている。また、就農直後の経営確立を支援するための新規就農総合支援事業を行い、令和4年度は3名が事業を利用し農業経営の安定化を図っている。	就農相談のサポート体制が構築され、関係機関と連携した支援により、新規就農者が町の中心的経営体として活躍する姿も見られるようになってきている。	順調	新規就農総合支援事業の適切な活用により次世代の担い手の確保を図るとともに、農林振興センター、農協、農業委員会と連携し、認定農業者等の包括的な経営支援を行う。	新規就農者数	年8人 (累計40人)	年8人 (累計24人)	年12人 (累計26人)	①大きく達成 (数値目標の 場合は100%以上)	順調	目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	本部の意見と同じ	継続	—
<b>②新たな担い手確保</b>																
5	産業振興課	本庄農林振興センター、JA、農業共済組合、及び郡内市町の連携により「児玉地域担い手育成総合支援協議会」を組織し、新規就農希望者が就農できる体制づくりとして「児玉地域明日の担い手育成塾」を開催し、担い手の育成に取り組んでいる。	新規就農総合支援事業の活用により新規就農者3名の就農を支援した。「児玉地域明日の担い手育成塾」において、令和4年度も町内にある2つの指導農家で研修が実施された。	順調	高齢化による離農が懸念される中、スマート農業の導入や安定的な農業継承の支援により、経営継続、農地利用を促進する。	新規就農者数	年8人 (累計40人)	年8人 (累計24人)	年12人 (累計26人)	①大きく達成 (数値目標の 場合は100%以上)	順調	目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	項番4との切り分けが分かりにくいため、項番4、5の統合について検討した方が良い。	継続	—
<b>③農地の集積・集約の推進</b>																
6	産業振興課	令和4年度の推進地区を中心に、担い手会議や地権者個別説明会を開催し、理解をいただいた。その後地権者宅への戸別訪問により集積を増やした。	推進地区とその他の地区を合わせて、11月及び3月転貸開始により計画通り中間管理事業へ集積を増やし、農業経営の効率化を図った。	概ね順調	引続き推進地区を定めて実施する。併せて利用権廃止により契約が終了する農地所有者に対して、中間管理事業への移行を推進する。	農地中間管理事業対象実施面積	443ha	230ha	246ha	①大きく達成 (数値目標の 場合は100%以上)	順調	目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	本部の意見と同じ	継続	令和3年度改訂により、KPIを一部変更
<b>④スマート農業の推進</b>																
7	産業振興課	スマート農業についての研究、情報収集を実施し、必要に応じて町内の農業者に対しスマート農業導入や実施に向けた情報提供を行った。	令和3年度には、1社（昔がえりの会）にて圃場作業自動化農業の実証が行われた。ドローンによる薬剤散布について法令等の確認を行い、農業者や実施事業者に対し指導を行った。	概ね順調	ドローンの活用等、上里町に相応しいスマート農業について研究を進める。	スマート農業の支援制度についての周知	報告	報告	報告	②ほぼ達成 (数値目標の 場合は70%以上100%未満)	概ね順調	今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	KPIについて、より具体的な支援内容の報告を行ってほしい。	継続	説明会の定期的な開催、利用があった場合の報告

# 基本目標1 町の資源を活かして、仕事をつくり、産業を盛んにする

項番	担当課	担当課による自己評価と今後の方針				KPI【重要業績評価指標】					上里町まち・ひと・しごと創生本部			上里町地方創生推進審議会		備考 【KPIの補足など】
		具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	KPI	最終目標 (R6)	R4 目標値	R4 実績値	達成度	本部評価	本部の意見	取組方針	審議会の意見	取組方針	
<b>(3) 農業の6次産業化による「かみさとブランド」の確立</b>																
<b>①特色を生かした6次産業化の検討</b>																
8	産業振興課	6月に発生したひょう害の影響を受けた農業者を支援するため、特産品である梨や上里梨を使用した加工品のPR活動を行った。また、町の新たな特産品の開発に向け、ベンチャー企業の進出支援を行った。	梨の加工に関しては、菓子製品の開発に加え酒造組合等との連携による新たな加工品の研究を進めている。包括連携協定を行った日本薬科大学、平沼水産との連携は、新たな特産品開発の追風となっている。	概ね順調	地域資源を活用し、上里農業の特色を活かした農産品を活用した加工品の開発を検討する。令和5年度からは上里ブランドのロゴや認定制度の新設を進めて行く。	ふるさと納税返礼品の内6次産業による商品数の割合	10.0%	6.0%	14.75%	①大きく達成 (数値目標の場合は100%以上)	順調	目標値を大きく達成しており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	本部の意見と同じ	継続	令和3年度改訂によりKPI変更
<b>(4) 地域で活躍する人への支援</b>																
<b>①創業支援の仕組みづくり</b>																
9	産業振興課	創業支援事業計画に基づき起業を目指す方からの相談を受けるとともに、町内で自動車整備業を起業する個人事業主に対し支援を行った。	令和元年度より上里町で創業する起業者の支援のため、上里町起業支援事業を開始、令和2年度には要綱を改正し支援の範囲を広げている。また令和3年度には県産業振興公社を創業支援事業に位置付け起業支援の充実を図った。R2創業支援実績4件、開業3件。R4実績1件、開業1件。	順調	商工会等と連携し創業支援事業計画に基づく支援を推進するなど起業支援事業の適切な運用を図り、町内で起業を目指す方に寄り添った支援を行う。	上里町企業者支援事業補助金利用者数	累計5件	1件 (累計2件)	1件 (累計4件)	①大きく達成 (数値目標の場合は100%以上)	順調	目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	本部の意見と同じ	継続	—
<b>②地域おこし人材への支援</b>																
10	総合政策課・総務課	観光、デジタル人材等、企業からの人材派遣制度等を活用することで、上里町の魅力や価値の向上を図る。	令和4年度より総合政策課において、デジタル人材として、民間企業からの非常駐派遣職員を招致している。民間企業との連携については協定の締結等により進みつつあるものの、人材登用については法整備や受入れ担当課への支援を要するため新規登用は難しい状況である。	概ね順調	今後も、民間企業のノウハウを活かせる事業について積極的に検討していく。	地域活性化起業者(企業人材派遣制度)の活用についての検討の状況について	検討報告	検討報告	報告	②ほぼ達成 (数値目標の場合は70%以上100%未満)	概ね順調	今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	本部の意見と同じ	継続	—
<b>(5) 働く機会の確保</b>																
<b>①就職相談の実施</b>																
11	産業振興課	窓口における求人情報の提供では、7件の利用があった。県北7市町による協議会により北部地域合同企業説明会を実施、地元での就職を目指す学生と地域の企業とのマッチングを行った。本庄地区雇用対策連絡協議会ではハローワークと連携した就職説明会を実施した。	産業振興課内に相談窓口を設置し求人情報の提供などを行っている。また、北部地域地方創生推進協議会就職支援事業部会では、高校生を中心に、大学生・短大生やUターン・Iターンの地元就職希望者を対象とした北部地域合同企業説明会を開催し本地区への就職者の確保を行っている。	概ね順調	求人情報の精査を行い、特に、再就職を希望する女性に対する的確な情報提供を行う。	就職相談者数	年8人(累計40人)	年8人 (累計24人)	年7人 (累計31人)	②ほぼ達成 (数値目標の場合は70%以上100%未満)	概ね順調	年間の目標値には届いていないものの、累計数については順調に伸びており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	本部の意見と同じ	継続	H30の年平均利用者数を維持する
<b>②元気な高齢者が活躍する場の充実</b>																
12	高齢者いきいき課	健康で活動意欲のある高齢者に対し、働く場や機会を拡充するため、上里町シルバー人材センターが安定的に運営できるよう補助金を交付した。高齢者の地域社会の参加の場として上里町シルバー人材センターの活性化を図るために、広報活動として「お仕事説明会」の記事を奇数月の町広報誌に掲載するとともに町の封筒に会員募集中の案内を印字した。	登録者数の目標値を大幅に上回って達成できた。シルバー人材センターの地道な勧誘活動と併せて、登録者数の増加に非常に有効だった。また、上里町シルバー人材センターへの補助金交付により、引き続き基盤強化に努めていきたい。	順調	継続して上里町シルバー人材センターによる高齢者の働く場や機会を拡充するため、広報等に努めて登録者の増加を支援していきたい。	シルバー人材センター登録者数	240人	230人	250人	①大きく達成 (数値目標の場合は100%以上)	順調	目標値を大きく達成しており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	本部の意見と同じ	継続	—

## 基本目標 2 「かみさと」の魅力を生み出し、発信し、人を呼び込む

項番	担当課	担当課による自己評価と今後の方針				KPI【重要業績評価指標】					上里町まち・ひと・しごと創生本部			上里町地方創生推進審議会		備考 【KPIの補足など】
		具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	KPI	最終目標 (R6)	R4 目標値	R4 実績値	達成度	本部 評価	本部の意見	取組方針	審議会の意見	取組方針	
<b>(1) 町の魅力を全国へ情報発信</b>																
<b>①積極的なタウンプロモーションの展開</b>																
<b>ア. ICT6を活用した情報発信の推進</b>																
13	総務課	平成28年12月にCMSを導入したホームページの運用が始まり、各課で積極的な記事掲載を行っている。令和5年3月には利用者にとってより見やすく、検索しやすいホームページへのリニューアルを行った。 また、公式LINEでのプッシュ型の情報発信を継続的に行ったほか、コロナ禍で人が集まらない状況下において、各種説明会に代わる情報発信ツールとして、YouTubeを活用した。	ホームページの年間アクセス数は年々増加傾向にあり、町の情報発信ツールとして大きな役割を担っている。令和4年度のホームページをリニューアルしたことで、更なる町のPR効果が期待される。 また、令和3年度から導入した公式LINEの友だち登録者数は順調に増加しており、年度末には約3,900人にプッシュ型で情報発信を行った。	順調	より見やすく、検索しやすいホームページを目指し、ページの整理を行っていく。 併せて、LINE等のSNSも積極的に活用するとともに、新たな情報発信基盤導入も検討していく。	ホームページ年間閲覧数	250,000件	185,000件	522,456件	①大きく達成 (数値目標の場合100%以上)	順調	今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	本部の意見と同じ	継続	—
					SNS等登録者数	5,500人	4,500人	3,946人	②ほぼ達成 (数値目標の場合70%以上100%未満)							
					広報紙閲覧アプリ登録者数	1,000人	700人	1,289人	①大きく達成 (数値目標の場合100%以上)							
<b>イ. 「こむぎっち」による町のPR</b>																
14	総務課	令和4年度はコロナ禍でイベントに限られていたが、中でも積極的に参加し、できる限りのPRに努めた。 また、啓発品としてクリアファイルを作成した。	令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、こむぎっちによる町のPRの機会が少なかった。着ぐるみの貸し出しにおいても同様である。 その中でも、本庄市で開催された「はにぼんフェスティバル」や「翔んで埼玉2」の映画撮影等に参加して、町のイメージアップに努めた。	やや不調	こむぎっち誕生から10年が経過し、着ぐるみを活用した町外へのPRは、一定の役割を果たしている。今後は、町内イベント等での活動を積極的に行い、町外へはグッズやSNS等を活用したPR活動を行っていく。	こむぎっち町外出張件数	15回	15回	6回	③未達成(数値目標の場合70%未満)	やや不調	令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響によりKPIの達成には至らなかった。 イベント等現地に赴く以外のこむぎっちの活用を検討し、目標達成のため、より有効なKPIを設定し事業の推進を図ること。	一部見直し	本部の意見と同じ	一部見直し	—
<b>②ふるさと納税制度を活用した特産物のPR</b>																
15	総合政策課	返礼品の追加登録や各ふるさと納税サイトの運用改善、事業者や関係課との情報交換などにより、好評を得ているゴルフ関連の返礼品に特化したチラシの作成及び配布などを行った。	寄附件数、寄附金額ともに大幅に増加し、体験型返礼品であるゴルフ場利用券やたんぼオーナー権についても、一定数の寄附件数を維持していることから、町のPRと併せて交流人口や関係人口の増加を図っている。	順調	総合戦略に掲げる目標値(ふるさと納税者数4,000人)は達成したものの、更なるふるさと納税者数の増加に向け、制度の動向を注視しつつ、引き続きふるさと納税サイトの運用改善、返礼品の充実等を図る。	ふるさと納税者数	4,000人	3,500人	4,033人	①大きく達成 (数値目標の場合100%以上)	順調	目標値に届いており、施策として効果があった。 今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	本部の意見と同じ	継続	令和4年度改訂によりKPI変更(上方修正)

## 基本目標 2 「かみさと」の魅力を生み出し、発信し、人を呼び込む

項番	担当課	担当課による自己評価と今後の方針				KPI【重要業績評価指標】					上里町まち・ひと・しごと創生本部			上里町地方創生推進審議会		備考 【KPIの補足など】
		具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	KPI	最終目標 (R6)	R4 目標値	R4 実績値	達成度	本部 評価	本部の意見	取組方針	審議会の意見	取組方針	
<b>(2) 観光事業の推進による交流人口・関係人口の増加</b>																
<b>①上里サービスエリア周辺地区の整備</b>																
16	総合政策課・振興課・まちづくり推進課	<p>《総合政策課》 上里サービスエリア周辺地区整備事業庁内連絡協議会により、各ゾーニングの進捗管理と、各担当課の連絡調整を行った。</p> <p>《産業振興課》 農業体験ゾーンで実施した、田んぼオーナー事業は町外から25名の参加、ジャガイモ収穫体験イベントには町内保育園の参加があった。このはな芝生広場で実施した観光物産イベントは、感染症の状況に配慮しながらであったが、このはなパーク進出の3社を始め商工会や西武リクレーションなど多くの団体との連携により適切な規模で実施することが出来た。</p> <p>《まちづくり推進課》 水辺ゾーンについて、河川空間の利活用について他自治体の事例等により検討を行った。</p>	<p>《総合政策課》 庁内協議会を開催し、関連整備事業を含め、進捗状況を共有した。また、このはな芝生広場に設置している広域観光看板の掲載内容が一部古かったため町内の観光情報を中心に更新作業を行った。</p> <p>《産業振興課》 町外在住の方が参加し神流清流米他町農産物の収穫などを実施している「田んぼオーナー事業」(JA主催)を令和2年度から実施。参加者が増加するなど人気のイベントとなっている。感染症の影響で令和2年度以降イベントは開催自粛となっているが、令和4年度にはこのはな芝生広場にて感染対策をしながら観光物産イベントを開催することが出来た。</p> <p>《まちづくり推進課》 河川空間の整備に係る条件等について整理し、活用方法について検討を進める。</p>	概ね順調	<p>《総合政策課》 引き続き、庁内協議会を有効に活用し、必要な協議を進める。特に、イベント時に必要な駐車場の整備について検討を進める。</p> <p>《産業振興課》 農村公園の運営主体「埼玉ひびきの農協」及びこのはなパーク関連事業者と協力し、イベント等のPR活動を通じて周辺地区の活性化を図る。</p> <p>《まちづくり推進課》 水辺ゾーンの整備により周辺地区との連携を図り活性化を目指していく。</p>	アグリパーク年間来客数	350,000人	295,195人	271,667人	②ほぼ達成 (数値目標の場合は70%以上100%未満)	概ね順調	<p>施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。</p>	継続	本部の意見と同じ	継続	—
<b>②上里ゴルフ場の活性化</b>																
17	まちづくり推進課	オープンコンペや来場者特典などのイベントを実施した。	来場者数が5万人を超え順調な来場者数で推移している。	順調	必要に応じて取り組み方法を工夫し、来場者数の維持を目標とする。	上里ゴルフ場年間利用者数	48,875人	現状維持 (現状：47,500人)	50,469人	①大きく達成 (数値目標の場合は100%以上)	順調	<p>目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。</p>	継続	本部の意見と同じ	継続	—
<b>③まちの資源を活かしたイベントの開催</b>																
18	産業振興課・生涯学習課	<p>《産業振興課》 このはな芝生広場では「このはなフェス」の代替イベントとして観光物産イベントを実施した。また「このはな芝生広場」の運用方針について関係課との調整により具体的な検討を行い、令和5年度の一般利用にむけ準備を整えた。</p> <p>《生涯学習課》 また、イベント開催については、オンラインでランニングやウォーキングの距離を全国の参加者と競う「オクトーバー ランアンドウォーク」に参加したほか、ニュースポーツ体験としてポッチャ・フロアカーリングを実施するとともに、連携協定を結んでいる西武ライオンズによる野球体験教室を空の社保育園・七本木・上里東小学校で実施した。</p>	<p>《産業振興課》 令和2年にこのはな芝生広場を活用したイベントの実施を検討してきたが、感染拡大の影響により開催自粛となってきた。令和4年度には代替事業を実施することが出来た。</p> <p>《生涯学習課》 また、イベント開催については減少してきたとはいえ、新型コロナウイルス感染症の影響は残り、中止となる教室・イベントはあったものの、ニュースポーツといった新たな取組を実施するなど、事業に着手することができた。</p>	概ね順調	<p>《産業振興課》 感染症対策の緩和が期待される中、観光産業事業等推進会議を中心に効果的な事業を適切な規模で検討実施する。</p> <p>《生涯学習課》 また、イベント開催については、コロナ禍でも活動しやすく年齢や性別にかかわらず誰もが参加しやすい教室・イベントを計画していく。</p>	新しいイベント創出の進捗	検討報告	検討報告	進捗状況を報告	②ほぼ達成 (数値目標の場合は70%以上100%未満)	概ね順調	<p>施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。</p>	継続	<p>本部の意見と同じ なお、KPI指標については達成したい内容が分かるよう、アウトカム指標についても検討してほしい。</p>	継続	町の資源を活かしたイベントの開催 《進捗報告方法》検討の進捗報告

## 基本目標 2 「かみさと」の魅力を生み出し、発信し、人を呼び込む

項番	担当課	担当課による自己評価と今後の方針				KPI【重要業績評価指標】					上里町まち・ひと・しごと創生本部			上里町地方創生推進審議会		備考 【KPIの補足など】
		具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	KPI	最終目標 (R6)	R4 目標値	R4 実績値	達成度	本部 評価	本部の意見	取組方 針	審議会の意見	取組方 針	
<b>(3) 若者を中心としたU I J ターンの促進</b>																
<b>① 移住促進事業の展開</b>																
19	総務課	県北7市町村で組織された「埼玉県北部地域地方創生推進協議会」として、東京国際フォーラムで開催された「ふるさと回帰フェア」に参加した。移住を検討している方々に対し、タブレット端末や観光パンフレット等を活用して上里町の魅力をPRした。	上里町に足を運ぶきっかけになってもらうよう、埼玉移住のホームページ情報や写真を更新して、新たな情報発信を行っている。 また、埼玉県北部地域地方創生推進協議会では、新たな魅力発信に繋がるイベントや情報発信の手段を検討している。	概ね順調	今後も町の魅力・スケールメリットをいかした県北のイメージアップを目指し、積極的な情報発信や各種イベントに参加する。上里町が定住の候補地となるよう、7市町で連携し、新たな企画を実施していく。	埼玉移住ホームページ年間閲覧件数	13,000件	10,800件	13,119件	①大きく達成 (数値目標の場合は100%以上)	順調	目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	本部の意見と同じ	継続	令和3年度改訂によりKPI変更
<b>② 空き家活用事業の推進</b>																
20	総合政策課	埼玉空き家バンクに登録されている、空き家に対しクリーニング費用を補助する。上限10万円	固定資産税の納税通知書に、空き家バンクと本補助金の案内パンフレットを同封した。また、「広報かみさと」においても制度の案内記事を掲載するなど広報に努めたが、補助条件である空き家バンクの登録者が伸び悩んでいる事等により実績は0人であった。	不調	令和2年度から令和4年度の3年間で1件の実績であった。より、有効な定住施策の検討を行うため、本事業は令和4年度をもって終了とする。 空き家活用以外の視点から、よりニーズに合った定住促進となる事業について検討したい。	移住者向け空き家クリーニング事業利用者数	年5人 (累計25人)	年5人 (累計15人)	年0人 (累計1人)	③未達成(数値目標の場合は70%未満)	不調	目標値の達成に至らなかった。定住希望者が求めるニーズ把握や先進地事例等により、効果的な事業の検討を進めること。	変更・廃止	定住促進に資する取組を積極的に行ってほしい。	変更・廃止	—

### 基本目標 3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

項番	担当課	担当課による自己評価と今後の方針				KPI【重要業績評価指標】					上里町まち・ひと・しごと創生本部			上里町地方創生推進審議会		備考 【KPIの補足など】
		具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	KPI	最終目標 (R6)	R4 目標値	R4 実績値	達成度	本部 評価	本部の意見	取組方 針	審議会の意見	取組方 針	
<b>(1) 出会いと婚活の支援</b>																
<b>① 出会い・婚活サポート事業の展開</b>																
21	総合政策課	県北7市町で構成する北部地域地方創生推進協議会の結婚支援事業部会で婚活イベントを実施し、北部地域在住者の結婚の希望を叶える場を提供した。また、町としては、県のSAITAMA出会いサポートセンターの協賛会員として、町内在住の未婚者への情報発信を実施した。	令和4年度の結婚支援事業部会では、新たな試みとして、タブレットを活用した「タブレットパーティー」を実施した。SAITAMA出会いサポートセンターの町民登録数は順調に増加している。	順調	今後も引き続き、関係市町と協力し、魅力的なイベント開催や積極的な情報発信により事業展開をしていく。	SAITAMA出会いサポートセンターの上里町町民の登録者数	累計74人	累計50人	累計59人	①大きく達成（数値目標の場合は100%以上）	順調	目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	本部の意見と同じ	継続	令和4年度改訂版によりKPI変更
<b>(2) 妊娠・出産・発育や発達の支援</b>																
<b>① 不妊治療等への支援</b>																
22	健康保険課	令和4年4月より43歳未満の方の不妊治療が保険適用になった。そのため、妊娠を希望する方に平等に機会を持っていただけるよう保険適用外の年齢の方を対象に不妊治療に要した費用の一部を補助。不妊に悩む男女に対し、経済的負担軽減を図る。	令和4年度からは不妊治療が保険適用とならない43歳以上の方へ治療に要した費用の一部を助成できた。不妊に悩む男女に対し、経済的負担の軽減を図れた。	順調	晩婚化の進展に伴い、不妊治療を受ける方の増加が想定される。今後も継続して制度のPRに努める。	不妊治療助成件数	累計55件	累計38件	累計49件	①大きく達成（数値目標の場合は100%以上）	順調	目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	本部の意見と同じ	継続	令和4年度改訂版によりKPI変更
<b>② 妊婦の健康づくりの支援</b>																
23	健康保険課	妊娠中は女性ホルモンの関係でむし歯や歯周疾患にかかりやすい時期とされており、歯周病菌が早産のリスク因子となることも判明している。また、親から子どもにむし歯菌を感染させてしまう可能性もある。産後は育児の多忙さにより口腔内のケアが怠りがちになるため、妊娠期間中に歯科健診を実施し、口腔衛生の向上を図る。	令和4年度の受診率は37.7%と令和2・3年度より徐々に増加傾向にある。	概ね順調	母子手帳交付時に行う個別の受診勧奨に加え、広報やHPで周知を行う。また、妊娠6～8か月頃に実施しているプレママコールにて、未受診の場合には受診勧奨を行う。	妊婦歯科検診受診率	45.0%	45.0%	37.7%	②ほぼ達成（数値目標の場合は70%以上100%未満）	概ね順調	今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	本部の意見と同じ	継続	—
<b>③ 発育・発達への支援</b>																
24	健康保険課・町民福祉課	《健康保険課》 5歳児健康相談は、軽度発達障害の早期発見・支援、及び就学に向けての相談を実施。また、発達全般に心配のある幼児やその保護者に対して、臨床心理士による発達相談も実施。 3歳6か月児健康診査に屈折検査を導入。これまで見落とされることがあった片眼の弱視や視力検査を実施することができない子どもについても弱視の早期発見に努めた。 《町民福祉課》 発達が気になる子ども等への早期支援のための事業で町内の社会福祉法人事業所へ委託しており、発達障害に関する専門的な知識を有するもの（臨床心理士等）が町内の保育園・幼稚園などを定期的に巡回（年3回程）を行い、保育園での子供の様子から保育士等に対して子ども及び保護者への具体的な支援について助言・指導を行った。	《健康保険課》 5歳児健康相談の受診率は88.0%であり、前年度から減少している。しかし、R2年度～R4年度の受診率の平均は、92.0%であり、目標をほぼ達成している。 R5年4月より3歳6か月児健康診断に屈折検査を導入した。 新生児聴覚検査助成と産後ケア事業は、令和3年度から実施した。 《町民福祉課》 町内全保育園・幼稚園で実施した。専門的な知識を有する者が定期的に巡回し支援のための助言を受けられることにより、発達が気になる子ども等への早期支援する体制は整ってきている。	概ね順調	《健康保険課》 5歳児健康相談は、引き続き軽度発達障害の早期発見・支援、及び就学に向けての相談を実施していく。 R5年4月から3歳6か月児健診に弱視の早期発見のために屈折検査を導入。 《町民福祉課》 発達が気になる子ども等への早期支援は重要なことであり、引き続き保育園及び幼稚園に事業の目的や必要性を理解いただきながら、発達が気になる子ども等への早期支援を行うための指導・助言を継続実施していく。	5歳児健康相談受診率	94.0%	94.0%	88.0%	②ほぼ達成（数値目標の場合は70%以上100%未満）	概ね順調	今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	本部の意見と同じ	継続	—
新生児聴覚検査	累計810人	累計499人	累計469人	②ほぼ達成（数値目標の場合は70%以上100%未満）												
子ども発達支援巡回の回数	累計130回	累計78回	年26回（R2～R4累計75回）	②ほぼ達成（数値目標の場合は70%以上100%未満）												
町内11保育園毎に年2～3回程度実施																



### 基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

項番	担当課	担当課による自己評価と今後の方針				KPI【重要業績評価指標】					上里町まち・ひと・しごと創生本部			上里町地方創生推進審議会		備考 【KPIの補足など】
		具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	KPI	最終目標 (R6)	R4 目標値	R4 実績値	達成度	本部 評価	本部の意見	取組方 針	審議会の意見	取組方 針	
<b>(3) 子育てしやすい環境の整備</b>																
<b>①こむぎっち子育てサポート事業の推進</b>																
<b>ア. 子育て情報サポート</b>																
25	子育て共生課	ホームページを利用し、子育て世代への情報発信に努めた。また、保育、手当、給付金等の制度内容の周知も随時対応した。	子育て支援サイト「むぎゅっと」「かみさと子育て支援アプリ」、児童館のイベント情報を公開し、また保育所入所申請書、児童手当各種手続き書類等をダウンロード可能にしていることで、わかりやすい情報提供を行った。	概ね順調	子育て世代の求める情報を届け、活用してもらえるよう、HP等を利用した情報発信に今後も継続して進めていく。	子育て支援ページの閲覧数	45,000件	43,000件	40,561件	②ほぼ達成(数値目標の場合は70%以上100%未満)	概ね順調	今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	本部の意見と同じ	継続	令和3年度改訂によりKPI変更(上方修正)
<b>イ. 働くパパママサポート</b>																
26	子育て共生課	保育所：待機児童の解消を目指し、子育ての環境整備を行うため、保育士の処遇改善を進めた。 放課後児童クラブ：職員の処遇改善を進め、また、公共施設再配置計画・維持保全計画に基づき、長幡児童館放課後児童クラブを長幡小学校に移転した。	保育所：育児休業からの復帰等による年度途中の入所希望が増え、待機児童が発生した。保育所入所の円滑化の実施や近隣市町の広域利用等を行っている。 放課後児童クラブ：希望通り入所できない児童は発生したが、特定の放課後児童クラブを希望する等の理由もあると考えられる。広報等にもクラブ生募集記事を掲載し、町内の放課後児童クラブを周知している。	順調	保育所：0～2歳児の確保量に不足が生じている。保護者の就労等による保育ニーズは高く、就労と子育てを両立するための方策を検討する。 放課後児童クラブ：公立と民間との利用調整について検証している。	保育所待機児童数	0人	5人	1人	①大きく達成(数値目標の場合は100%以上)	順調	目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	本部の意見と同じ	継続	—
						児童クラブ待機児童数	0人	2人	0人	①大きく達成(数値目標の場合は100%以上)						—
<b>ウ. 地域で子育てサポート</b>																
27	子育て共生課	保護者が気軽に育児相談や他の子育て家庭との交流ができる地域子育て支援拠点を実施した。子育て世代包括支援センターでは、相談や情報提供を行うなどの支援を実施した。ファミリーサポートセンター事業の運営を通じて子育て援助を希望する人と支援する人の相互援助活動に対する支援を実施した。	子育て支援拠点事業は、子育て世代包括支援センター等を通じて周知を行い、また長幡児童館において事業を開始した。ファミリーサポートセンター事業は就学児の保護者の利用が多く、保護者の就労と子育て両立の一助となっている。 緊急サポートセンター事業は、病児・病後児等の緊急的な保育需要に対応することで、子育て支援環境の充実に寄与した。	概ね順調	地域子育て支援拠点、ファミリーサポートセンターについて周知を徹底し、利用者の増加を図り地域で子育てを支える環境整備を進める。親子サークルは実施要綱の見直しや廃止について検討する必要がある。	地域子育て支援拠点利用者数	2,830人	2,561人	2,742人	①大きく達成(数値目標の場合は100%以上)	概ね順調	「ファミリー・サポート・センターの利用回数」についてはKPIの達成に至っていないが、コロナが収束していない中でも事業の継続実施ができていたため評価できる。 今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫することで、KPIの達成を目指すこと。	継続	本部の意見と同じ	継続	「第2期上里町子ども・子育て支援事業計画」による
						ファミリー・サポート・センター利用回数	400回	390回	118回	③未達成(数値目標の場合は70%未満)						「第2期上里町子ども・子育て支援事業計画」による令和3年度改訂によりKPI変更(上方修正)

### 基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

項番	担当課	担当課による自己評価と今後の方針				KPI【重要業績評価指標】					上里町まち・ひと・しごと創生本部			上里町地方創生推進審議会		備考 【KPIの補足など】
		具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	KPI	最終目標 (R6)	R4 目標値	R4 実績値	達成度	本部 評価	本部の意見	取組方 針	審議会の意見	取組方 針	
<b>エ. 地域の子育て環境サポート</b>																
28	生涯学習課・町民福祉課	<p>《生涯学習課》 コロナ禍ではあったが「のびっこ教室」では感染対策を取りながら、全小学校・全学期実施することができた。「チャレンジクラブ」でも、親子料理教室での持ち帰り用メニューや米作り体験教室での収穫米の配布など、事業内容を変更し、安心して事業に参加できるよう実施した。</p> <p>《町民福祉課》 食事や遊びの場などを提供する子ども達の居場所づくりへの取り組みに対して、社会福祉協議会とともに支援を行う。</p>	<p>《生涯学習課》 放課後子ども教室の「のびっこ教室」は、全小学校で実施し、異年齢の仲間と安全かつ安心して学習や体験活動、様々な遊びなどを通して交流を図れる居場所づくり提供を行っている。しかしながら、現場で指導しているサポーター等の高齢化により、新しいスタッフの確保が急務となっている。チャレンジクラブは、子どもたちの休日に体験活動や文化活動等を開催し、子どもたちが、地域住民や異年齢との交流を図ることを目的に各種教室を開催することができている。</p> <p>《町民福祉課》 「こども食堂」は、町内にある社会福祉法人と飲食店の2か所で実施している。社会福祉協議会と連携し、子ども食堂の継続した活動支援に努めると共に、事業の周知や、新規開設に関する相談に応じている。</p>	順調	<p>《生涯学習課》 引き続き、地域の方の協力を得ながら、「のびっこ教室」や「米づくり体験教室」・「親子料理教室」等の「チャレンジクラブ」を実施し、体験の場と居場所を提供する。また、スタッフの確保など、課題に向け調整を行う。</p> <p>《町民福祉課》 事例報告会及びセミナーなど各種事業の周知・啓発を行いながら協力いただける団体等を増やしていくように取り組んでいく。</p>	のびっこ教室への参加者数	120人	120人	109人	②ほぼ達成 (数値目標の場合は70%以上100%未満)	概ね順調	「子ども食堂の設置数」については、KPIの達成に至っていないが、コロナの収束を迎えていない中でも事業の継続ができていたため評価できる。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	本部の意見と同じ	継続	—
<b>オ. 子育て家計サポート</b>																
29	子育て共生課	令和3年4月より開始。出生した子ども1人につき出産祝金として1万円を、また出産祝品として木製食器セット、木製子ども用いすを支給することにより、乳児期の子育てに係る経済的負担を軽減し子どもの健やかな成長を促進する事業を実施しました。	出生届提出時に申請してもらい(ほぼ100%)、乳児期の子育てに係る経済的負担を軽減することができた。出産祝品の種類を令和5年度から増やすための準備を進めた。	概ね順調	出産祝金は第3子以降は3万円とする。出産祝品を3種類から選べるように支援を強化する。	第3子以降保育料等軽減対象者数	112人	112人	110人	②ほぼ達成 (数値目標の場合は70%以上100%未満)	概ね順調	今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	本部の意見と同じ	継続	減少を抑え現在(H30)の水準を維持
<b>エ. いのちの大切さサポート</b>																
30	子育て共生課	町内の小学5年生を対象とし、助産師を講師としたいのちの大切さ出前講座を実施しました。	いのちの大切さ出前講座においては、専門職である助産師から実体験に基づいた講座を開くことで「生まれてきてよかった」「いのちの大切さが分かった」という意見を多く聞くことができた。	概ね順調	いのちの大切さ出前講座を引き続き町内各小学校で実施していく。	いのちの大切さ出前講座、講演会参加者数	累計1,711人	年337人 (累計1,045人)	年250人 (累計552人)	②ほぼ達成 (数値目標の場合は70%以上100%未満)	概ね順調	今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	本部の意見と同じ	継続	—

### 基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

項番	担当課	担当課による自己評価と今後の方針				KPI【重要業績評価指標】					上里町まち・ひと・しごと創生本部			上里町地方創生推進審議会		備考 【KPIの補足など】
		具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	KPI	最終目標 (R6)	R4 目標値	R4 実績値	達成度	本部 評価	本部の意見	取組方 針	審議会の意見	取組方 針	
<b>(4) 未来を担う子どもたちへの教育支援</b>																
<b>① 確かな学力の向上</b>																
31	教育指導課	① 共同的な学びを通して教師の指導力向上を目指す校内研修会を実施。小・中学校4回以上実施。 ② 総合的指導を行う学力向上指導員を配置。(1名) ③ 英語によるコミュニケーションスキルの向上を図るALTを配置。(5名) ④ 理科の授業における観察・実験活動の充実を図る理科支援員を配置。(3名) ⑤ 専門性を持つICT支援員を配属。(1名)	① ②年間計画に位置付け、指導力向上につながる有意義な研修が実施された。 ③ 児童生徒が英語を活用し会話をする場面の充実が図られた。 ④ 理科好きな児童の育成に資するとともに、安全面にも配慮した授業を進めることができた。 ⑤ ICT支援員が各校に積極的に情報提供をすることで、授業内での学習用PC端末の活用が進んだ。	順調	各支援員の活用を更に図り、学力向上に取り組んでいく。	全国学力学習調査において全国平均を100とした時の上里町の値(国語・算数・数学)	国語100 算数・数学100	国語96 算数・数学94	国語94 算数・数学91	② ほぼ達成(数値目標の場合は70%以上100%未満)	概ね順調	今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	本部の意見と同じ	継続	対象は小6と中3
						埼玉県学力学習状況調査の外国語表現力の県平均を100とした時の上里町の値	95	95	87	② ほぼ達成(数値目標の場合は70%以上100%未満)						令和3年度改訂によりKPI変更。現状値は令和2年度の数値
<b>② 体を動かすことが好きな児童生徒の育成と体力の向上</b>																
32	教育指導課	① トップアスリートで構成された体育実技指導員を配置。(2名) ② 中学校の部活動について、体力向上や技能向上の支援を行う部活動指導員を配置。(7名) ③ 体力向上を推進するため、上里町体力向上推進委員会を実施。 ④ 一人一人の体力課題を把握し、課題解決に向けた体育授業・体育活動の実践を行った。	① 専門的知識・技能を有したアスリートが指導に当たることで、児童の意欲・技能の向上と安全確保につながった。 ② 体力・技能向上につながる効果的指導が行われた。 ③ ④各校・町の課題の分析を行い、課題解決策を検討・実施した。体力向上に向けた研究主題にせまり、情報を共有した。	やや不調	日本女子大学の連携を継続し、児童生徒の体力の向上に向けてきめ細やかな指導を行っていく。	新体力テスト(144種目)において県平均以上である種目数	73種目	60種目	45種目	③ 未達成(数値目標の場合は70%未満)	やや不調	児童生徒の体力向上のための取組は、順調に行えているもののKPIの達成に至っていない。学校生活の様々な場面において、身体を動かす機会の創出等、引き続き、目標達成のため、課題整理等を行い、必要に応じて取り組み方法を工夫すること。	継続	本部の意見と同じ	継続	—

### 基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

項番	担当課	担当課による自己評価と今後の方針				KPI【重要業績評価指標】					上里町まち・ひと・しごと創生本部			上里町地方創生推進審議会		備考 【KPIの補足など】
		具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	KPI	最終目標 (R6)	R4 目標値	R4 実績値	達成度	本部 評価	本部の意見	取組方 針	審議会の意見	取組方 針	
<b>③子どもの学びを支える環境づくり</b>																
33	教育指導課	<p>①不登校対策等のために、中学校へさわやか相談員（2名）・小中学校へスクールカウンセラー（2名）を配置。</p> <p>②楽しい学校生活を送るためのアンケート「Q-Uテスト」の実施。（小学校）</p> <p>③年度当初、校長先生、PTA会長、コーディネーターを委員とした推進委員会を実施。</p> <p>④携帯型翻訳機を日本語未習得の児童生徒への対応に活用。</p>	<p>①不登校の要因がさらに複雑化する中、個に応じた相談・支援が行われた。</p> <p>②学校生活の意欲が低下している子供を発見し、早期対応をすることができた。</p> <p>③多面的・多角的に意見をいただくことで、自主的な学習習慣の定着と学力の向上を図ることができた。</p> <p>④日本語を習得していない児童生徒が安心して学校生活に取り組むことができた。</p>	概ね順調	「いじめ防止基本方針」に基づき、各学校でいじめのないように組織的に取組みを継続する。	<p>学カアップ教室への参加者数</p> <p>40人</p>	40人	36人	②ほぼ達成（数値目標の場合は70%以上100%未満）	<p>「上里っ子ジャンプ教室への参加者数」、「1年間に30日以上欠席した不登校児童生徒の割合」については、KPIの達成に至らなかった。</p> <p>KPIの達成に至らなかった取組事業については、課題を整理し、目標達成のため引き続き取組内容を工夫すること。</p>	やや不調	<p>上里っ子ジャンプ教室のKPIについては、達成に至らない原因により、取組方法の変更や、場合によっては適正なKPIの設定を行うこと。</p> <p>不登校児童生徒の割合のKPIについては、不登校児童生徒の解消にのみ焦点を当てることなく、現在取り組んでいるような、個々に応じた支援を充実させてほしい。</p>	継続	減少を抑え現在(H30)の水準を維持		
上里っ子ジャンプ教室への参加者数	40人	26人	12人	③未達成（数値目標の場合は70%未満）	—											
学校に行くことが楽しいと答えた児童生徒の割合	小6 90% 中3 90%	小6 90% 中3 90%	小6 84% 中3 89%	②ほぼ達成（数値目標の場合は70%以上100%未満）	令和3年度改訂によりKPI変更 変更点：人数から割合へ											
1年間に30日以上欠席した不登校児童生徒の割合	1%以下	1%以下	2.0%	③未達成（数値目標の場合は70%未満）	令和3年度改訂によりKPI変更 変更点：人数から割合へ											
携帯型翻訳機の年間使用回数	200回	160回	210回	①大きく達成（数値目標の場合は100%以上）	—											
<b>④郷土をはぐくみ、豊かな心を持つ人材の育成</b>																
34	教育指導課	<p>①身近な地域や上里町の地理的環境、地域の安全を守るための諸活動など人々の生活と関連を踏まえて理解する。</p> <p>②調査活動、地図帳や具体的資料を通して、必要な情報を調べとめる技術を身に付ける。</p> <p>③主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に活かそうとする態度を育成する。</p>	<p>①上里町の位置、地形や土地利用、交通、町役場、消防署、警察などの場所と働きなどを見学し、理解した。</p> <p>②学習した場所や田畑、森林、伝統的な町並みなど地図帳を使って方位や地図記号を学習した。</p> <p>③町や人々の様子は、時間の経過に伴い、移り変わっていくことを学習した。</p> <p>《社会科における授業の実施時間》 小学校3年生：70時間 小学校4年生：90時間</p>	順調	社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習も問題を追究・解決する活動を通して、児童の資質・能力を育成する。	小学校3年生・4年生の社会科における授業の実施状況	報告	報告	報告	①大きく達成（数値目標の場合は100%以上）	順調	目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取組方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	本部の意見と同じ	継続	上里独自の教科書を使った郷土の学習 《進捗報告方法》実施された授業時数と内容の報告（小学校3年生・4年生）

## 基本目標4 時代の変化に対応し、安心してくらす地域をつくる

項番	担当課	担当課による自己評価と今後の方針				KPI【重要業績評価指標】					上里町まち・ひと・しごと創生本部			上里町地方創生推進審議会		備考 【KPIの補足など】
		具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	KPI	最終目標 (R6)	R4 目標値	R4 実績値	達成度	本部評価	本部の意見	取組方針	審議会の意見	取組方針	
<b>(1) 安心安全でくらしやすいまちづくり</b>																
<b>①災害に強いまちづくりの推進</b>																
<b>ア. 地域防災計画の実践と地区防災計画策定支援</b>																
35	くらし安全課	4月4日、新規採用職員を対象に、防災に関する講習及び避難所HUG体験（地震編）を実施した。また、6月29日には、町職員及び社協職員を対象に「一般財団法人 消防防災科学センター」の市町村防災力強化出前研修を利用し、同センターに登録されている「防災図上訓練指導員」による避難所HUG（ハグ）（風水害版）体験を実施した。	研修後のアンケートでは、「避難所には、色々なことが求められることを痛感しました」、「実際の避難所での対応をシミュレーションできて非常に参考になりました」等の意見が多数あり、職員の防災意識高揚に一定の成果があったと考える。	順調	職員の防災意識の維持・向上を図るため、継続して研修や訓練を実施する。マンネリ化しないよう、内容の工夫が必要である。	地域防災計画に基づき実施される職員研修の実施回数	年2回(累計10回)	2回(累計6回)	2回(累計6回)	①大きく達成(数値目標の場合は100%以上)	順調	目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。地区防災計画の策定支援についても検討を進め報告すること。	継続	本部の意見と同じ なお、KPI指標については達成したい内容が分かるよう、アウトカム指標についても検討してほしい。	継続	—
<b>イ. 災害情報伝達手段の充実</b>																
36	くらし安全課	屋内でもリアルタイムで防災行政無線と同じ放送を聞き取ることができるシステムの調査・研究を進めた。実際に導入している自治体に視察に行き、1月には新たなシステムを試験的に導入し、町民約30名にモニターとなっていたり、使用感の確認を行った。	試験後に行ったアンケートでは、「風雨に関係なく聞き取れるので非常によかった」、「外出先でも音声で確認できて良い」等、多くの方から好評をいただいた。この結果から導入の方向性が見えてきたと考える。	概ね順調	アンケートでいただいた意見を基に、早期導入に向け検討を更に進める。	防災メール登録件数	6,000件	4,141件	5,421件	①大きく達成(数値目標の場合は100%以上)	順調	目標値に届いており、施策として効果があった。今後も新たなシステム導入等の検討を進め災害情報伝達手段の充実に努めること。	継続	本部の意見と同じ	継続	令和3年度改訂によりKPIを変更 変更点：人数から件数へ
<b>ウ. 災害時における他自治体との連携強化の推進</b>																
37	くらし安全課	協定締結自治体及び企業と担当者名簿の更新を行う等、相互に連絡を取ることができる体制の確立に努めた。	6月2日の降雲の際、協定締結自治体から支援の申し出を受ける等、相互に協力する体制を確認することができた。また、実際に協定締結企業から物資の提供を受けたことで、体制の確認をすることができた。	概ね順調	7月29日開催予定の「上里町防災フェスティバル」において、協定締結自治体及び企業に出展をいただく等、平時から交流を図るよう努める。	協定における支援状況	支援の報告	支援の報告	支援の報告	①大きく達成(数値目標の場合は100%以上)	順調	目標値に届いており、施策として効果があった。今後も新たなシステム導入等の検討を進め災害情報伝達手段の充実に努めること。	継続	本部の意見と同じ	継続	—
<b>②犯罪のないまちづくりの推進</b>																
38	くらし安全課	警察官08を「安全安心まちづくり推進委員」として採用し、平日14時から18時まで、町内巡回パトロールを実施した。また、92行政区区全てに防犯のぼり旗を作成して配布した。そのほか、自主防犯パトロール隊の活動に係る費用に補助金を交付することで、活動の支援を行った。	犯罪を未然に防止し、犯罪を起こさせない環境を整備する取り組みとして、一定の効果があつたと考える。	概ね順調	近年の巧妙化する特殊詐欺対策として、警察官による高齢者宅の戸別訪問に協力する等、警察と連携した防犯対策を推進する。	防犯パトロール隊数	30隊	30隊	30隊	①大きく達成(数値目標の場合は100%以上)	順調	目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	本部の意見と同じ	継続	減少を抑え現在(H30)の水準を維持
<b>③交通事故のないまちづくりの推進</b>																
39	くらし安全課	交通事故防止のため、各種啓発活動及び、本庄警察署・道路管理者等と協議し、町道上等の交通安全施設の設置及び補修を実施した。交通安全教育として、本庄警察署及び交通指導員により、町内全小学校へ交通安全教室や自転車免許試験を実施した。また、町内保育園・幼稚園の年長を対象とした交通安全教室も実施した。	交通事故は減少傾向にあるものの、埼玉県内においては、交通事故発生率は高い状況である。	概ね順調	目標値を達成しているが、道路等の新設もあるため、交通事故減少に対する取組を継続して行う。	交通人身事故発生年間件数	147件以下	153件以下	97件	①大きく達成(数値目標の場合は100%以上)	順調	目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	本部の意見と同じ	継続	—

## 基本目標 4 時代の変化に対応し、安心してらせる地域をつくる

項番	担当課	担当課による自己評価と今後の方針				KPI【重要業績評価指標】					上里町まち・ひと・しごと創生本部			上里町地方創生推進審議会		備考 【KPIの補足など】
		具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	KPI	最終目標 (R6)	R4 目標値	R4 実績値	達成度	本部評価	本部の意見	取組方針	審議会の意見	取組方針	
<b>④高齢者が住み慣れた地域で、安心してらせるまちづくりの推進</b>																
40	高齢者いきいき課	<p>・高齢者見守りキーホルダーについて、広報で周知するとともに、対象となる方には窓口相談や訪問で積極的に周知。認知症または疑いのある方には、併せてSOSネットワークへの登録も勧めた。</p> <p>・年度末に高齢者見守りネットワーク会議を開催。関係機関や見守り協力事業者に出席してもらい、町の見守り制度や実際の事例、消費者被害について共有。</p>	<p>・見守りキーホルダーについて、広報誌に掲載し周知を図った。</p> <p>・警察、消防へ町から見守りキーホルダーの登録者情報を提供することで、身元や緊急連絡先の迅速な確認が可能となった。</p> <p>・見守り協力事業者も増加しており、引き続き周知や協定締結依頼を実施していく。</p>	概ね順調	<p>・認知症高齢者、単身・高齢者世帯の増加に伴い、引き続き町民の方々に見守りの取組を広く周知していく。</p> <p>・見守りネットワーク会議の継続実施。</p> <p>・見守り協力事業所を増やしていく。</p>	見守りキーホルダー登録者数	123人	93人	111人	①大きく達成（数値目標の場合は100%以上）	順調	目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	本部の意見と同じ	継続	—
<b>⑤空き家対策事業の推進</b>																
41	くらし安全課・まちづくり推進課	<p>固定資産税の納税通知書にチラシを同封し、「埼玉北空き家バンク」の周知に努めた。結果として、空き家バンクには、3件の利用相談及び1件の利用登録があった。</p> <p>2月18日に、「空き家相談会」を開催し、町内に空き家を持つ所有者10名が参加し、空き家の処分について相談を行った。</p>	<p>納税通知書に同封することで、広く町内外の空き家所有者に空き家バンクを周知することができた。また、空き家所有者の悩みを解消するため、「空き家相談会」を開催する等、空き家解消に向けた新たな取り組みも行うことで、今後の展開が期待できる。</p>	概ね順調	<p>《くらし安全課》 「空き家相談会」の効果を検証し、空き家解消に効果的な手段の実施を検討する。</p> <p>《まちづくり推進課》 低未利用地の活用について、都市機能誘導区域内での支援措置について検討を行う。</p>	空き家等対策計画の策定	策定	進捗報告	—	③未達成（数値目標の場合は70%未満）	やや不調	空き家バンクの広報や相談会を実施するなど、事業の取組については、実施できているがKPIの達成に至っていない。事業推進に係る分野は多岐に渡るため、町として行えることを整理するとともに、KPIについては、より実践的なものへの変更も考えられる。	継続	本部の意見に加え、空き家相談会を有効に活用し、空き家に関する各種取組を実施すること。	継続	令和3年度改訂によりKPIを設定

基本目標 4 時代の変化に対応し、安心してらせる地域をつくる

項番	担当課	担当課による自己評価と今後の方針				KPI【重要業績評価指標】					上里町まち・ひと・しごと創生本部			上里町地方創生推進審議会		備考 【KPIの補足など】
		具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	KPI	最終目標 (R6)	R4 目標値	R4 実績値	達成度	本部評価	本部の意見	取組方針	審議会の意見	取組方針	
<b>(2) 生涯を通じた健康づくりの支援</b>																
<b>①住民が主役の健康づくり活動の推進</b>																
<b>ア. 高齢者の元気づくりの支援</b>																
42	高齢者いきいき課	・介護予防サポーターの養成講座の開催 ・体操の活動地区に対する継続支援（地域包括職員と理学療法士） ・コロナ禍で一度も体操が再開できていない地区への聞き取り調査 ・介護予防サポーターへのフォローアップ講座 ・広報、ホームページ、リーフレットを活用した介護予防に関する周知・普及啓発	・介護予防サポーター養成講座の開催 ・体操の活動地区に対する継続支援では、基本チェックリストの記入と体力測定を実施。（20地区） ・体操が再開できていない地区への聞き取り調査を実施。 ・かみさと広報に介護予防に関する情報について毎月掲載。	概ね順調	・体操が安全に実施できるように継続して支援を行う ・新規参加者の促すために、引き続き体操の普及啓発の活動を継続する ・介護予防や地域のつながりを保つ取り組みの検討及び展開 ・関係課と連携した高齢者の介護予防の展開	要介護等認定のうち軽度者の割合（事業対象者含む）	57.6%	56.8%	50.4%	②ほぼ達成（数値目標の場合は70%以上100%未満）	概ね順調	今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	本部の意見と同じ	継続	「上里町高齢者福祉計画」「介護保険事業計画」より
					こむぎっちちよっくら健康体操の参加者数	432人	420人	331人	②ほぼ達成（数値目標の場合は70%以上100%未満）							
<b>イ. 「こむぎっち体操」等を活用した健康づくり</b>																
43	生涯学習課	減少してきたとはいえ、新型コロナの影響が残ったことなどにより、体操を実施する事業所は増やすことはできなかった。ただし、すでに実施している事業所や小学校運動会等では、こむぎっち体操が実施再開されるなど、明るい兆しも見えてきている。 また、こむぎっちウォーキングコースについては、コースを利用したこむぎっちウォークラリーを開催するとともに、町内全域に毎月配布されるスポーツ推進報で記事に取り上げ、周知を行った。	コロナ禍により実施数の増加には至らなかった。小学校運動会やスポーツ少年団主催事業、企業祭では継続的にこむぎっち体操を実施している。また、希望者に対してDVDを配布するなども行っており、少しずつではあるが、周知できている。 ウォーキングコースについては、ウォークラリーやスポーツ推進委員報による広報等を行うことで、少しずつであるが町民に周知することができた。	やや不調	こむぎっちウォーキングコースについては少しずつではあるが、着実に周知されてきており、今後も積極的に周知していく。また、こむぎっち体操についても、こむぎっちちよっくら体操やランジ体操等の健康体操とともに、町民の健康増進・体力向上に繋げていく。	健康増進にかかわる体操を実施している事業所数	16事業所	12事業所	7事業所	③未達成（数値目標の場合は70%未満）	やや不調	「こむぎっち体操」も含め、様々なツールやイベント等により、町民が気軽に運動できる機会が得られるよう、引き続き事業を実施すること。	継続	個別検討により出された意見（別紙「個別検討用シート」）により、取り入れられるものについては検討し、更なる事業の発展に努めてほしい。	継続	
<b>ウ. 生涯スポーツの普及</b>																
44	生涯学習課	オンラインでランニングやウォーキングの距離を全国の参加者と競う「オクトーバーランアンドウォーク」に参加した。 また、ニュースポーツ体験としてポッチャ・フロアカーリングを実施するとともに、連携協定を結んでいる西武ライオンズによる野球体験教室を空の杜保育園・七本木・上里東小学校で実施した。	減少してきたとはいえ、新型コロナウイルス感染症の影響は残り、中止となる教室・イベントはあったものの、ニュースポーツといった新たな取組を実施するなど、事業に着手することができた。	順調	コロナ禍でも活動しやすいウォーキングや体操、また年齢や性別にかかわらず誰もが参加しやすいニュースポーツなどを軸にイベントや教室を計画していく。	スポーツ教室の年間参加者数	120人	88人	207人	①大きく達成（数値目標の場合は100%以上）	順調	目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	本部の意見と同じ	継続	
<b>エ. 健康づくりの場の整備</b>																
45	まちづくり推進課	令和4年度に上里町公園施設長寿命化計画を策定し、公園施設の健全度調査を実施した。	遊具の劣化診断・保守点検を実施し危険遊具を確認、代替遊具の設置について検討した。	順調	令和5年度…R6改修工事の設計業務 令和6年度…危険遊具の改修工事	公園施設長寿命化計画の策定	策定	策定	策定	②ほぼ達成（数値目標の場合は70%以上100%未満）	順調	目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	一部見直し	本部の意見と同じ なお、KPI指標については達成したい内容が分かるよう、アウトカム指標についても検討してほしい。	一部見直し	令和4年度改訂によりKPI変更

## 基本目標 4 時代の変化に対応し、安心してくらす地域をつくる

項番	担当課	担当課による自己評価と今後の方針				KPI【重要業績評価指標】					上里町まち・ひと・しごと創生本部		上里町地方創生推進審議会		備考 【KPIの補足など】	
		具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	KPI	最終目標 (R6)	R4 目標値	R4 実績値	達成度	本部評価	本部の意見	取組方針	審議会の意見		取組方針
<b>②多世代にわたる健康づくりの推進</b>																
<b>ア. 健康意識向上への支援</b>																
46	健康保険課	各種検診や健康診査、健康教室などに参加することでポイントがたまる「かみさと たまる健★幸マイレージ」を実施した。令和4年度は、新規に「たまる！健康3カ月チャレンジ」によるポイント付与を実施し、自宅での個人の健康づくりの取組を支援した。	健診会場や広報誌での周知に加え、すでに登録済みの方からの口コミによる新規登録者も増えてきている。特にスマートフォン参加者が増加しているため、ウォーキングに取り組む人の増加が見込まれる。	順調	健康意識の向上を促せるよう、周知や情報発信方法を工夫していきたい。またR5よりスマートフォン登録のみとなるため、スマートフォン登録に関する周知も進めていく。	「たまる健★康マイレージ」参加者数	1,500人	1,300人	1,467人	①大きく達成（数値目標の場合は100%以上）	順調	目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	本部の意見と同じ	継続	令和4年度改訂によりKPI変更（上方修正）
<b>イ. 特定検診・各種検診の推進</b>																
47	健康保険課	がん検診は、胃・肺・大腸・子宮・乳がん検診の他、胃がんリスク検診、前立腺がん検診を実施。検診自己負担は無料となっている。年齢やがん種を絞った受診勧奨や要精検者への受診勧奨を実施。歯周疾患検診は、対象者に受診勧奨通知を送付した。また広報等を通じて受診勧奨を実施。	令和4年度も感染症対策を講じながらがん検診を実施し、健★幸マイレージ事業の受診勧奨効果も併せて各がん種ともに令和3年度より受診率を伸ばすことができた。	順調	健★幸マイレージ事業とタイアップするなど、受診率向上のための効果的な周知方法や受診勧奨を実施する。	「たまる健★康マイレージ」参加者数	1,500人	1,300人	1,467人	①大きく達成（数値目標の場合は100%以上）	順調	目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	本部の意見と同じ	継続	令和4年度改訂によりKPI変更（上方修正）
<b>③緊急医療体制の整備</b>																
48	健康保険課	休日・夜間の初期救急医療体制を確保するため、休日急患診療所の診療業務、在宅当番医制の運営事業に対する補助、年末年始休日歯科診療の業務委託を実施している。休日・夜間の第二次救急医療体制を確保するため、病院群輪番制病院の運営事業に対する補助や、熊谷・深谷地区、群馬県内の医療機関等と連携した取組を実施している。	地域における休日・夜間診療や救急医療の確保等のため、例年どおり継続的に事業を実施している。	順調	本庄市児玉郡医師会をはじめとする圏域内外の関係機関との連携強化を図り、初期から第三次救急医療体制を確保するための取組を今後も実施する。	緊急医療体制の整備状況	報告	報告	報告	①大きく達成（数値目標の場合は100%以上）	順調	今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	本部の意見と同じ	継続	緊急医療体制の維持《進捗報告方法》体制整備にかかる事業の報告
<b>(3) みんなで支えあう地域の絆づくり</b>																
<b>①「地域力」強化への支援</b>																
49	暮らし安全課	公民館のせせらぎ大学やサロン等、様々な機会を捉えて防災講習会を実施した。講習会では、ハザードマップの見方を説明し、自宅周辺のリスクを認識してもらい、パーティションを設置すること等を通して、災害を身近なものとして考えてもらうきっかけとなるよう努めた。	自主防災組織を中心とした各地域での防災講習会を実施することで、自助・共助の重要性を認識する機会を作ることに取り組んだ。また、実際に避難所開設を体験することで、防災に「我がこと意識」を持ってもらう機運の醸成を図ることができたと思う。	概ね順調	自主防災組織モデル地区を増加させるため、自助・共助の重要性について、講習会等の機会を捉えて周知を継続していく。	自主防災組織モデル地区数	6地区	5地区	5地区	①大きく達成（数値目標の場合は100%以上）	順調	目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	本部の意見と同じ	継続	—
<b>②地域でふれあう機会の充実</b>																
50	町民福祉課	地域の高齢者や住民等が気軽に集い、交流や健康増進の場を提供するふれあいサロンの設置を地域住民等に呼びかけて積極的に推進し、活動を支援した。新型コロナウイルスの影響により、活動休止を余儀なくされるサロンが引き続き多くあったが、地域のつながりをたやさないために感染対策を徹底しながら実施した。	令和4年度については、長幡地域で2ヶ所（サロン藤木戸、帯刀ふれあいサロン）のサロンが新規開設した。20サロン（新規サロン2ヶ所を含む）のうち11サロンで事業が実施された。	概ね順調	現在活動休止しているサロンについては、再開しているサロンの運営方法を情報提供し、実施に向けて支援する。また、新規サロン開設のための広報活動も引き続き行っていく。	地域の集まりの場団体数	25団体	22団体	20団体	②ほぼ達成（数値目標の場合は70%以上100%未満）	概ね順調	今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	本部の意見と同じ	継続	—



## 基本目標4 時代の変化に対応し、安心してくらす地域をつくる

項番	担当課	担当課による自己評価と今後の方針				KPI【重要業績評価指標】				上里町まち・ひと・しごと創生本部			上里町地方創生推進審議会		備考 【KPIの補足など】	
		具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	KPI	最終目標 (R6)	R4 目標値	R4 実績値	達成度	本部評価	本部の意見	取組方針	審議会の意見		取組方針
<b>③ふるさとを知り、地域を大切に作る機運の醸成</b>																
51	生涯学習課	ふるさと学・行政をもっと知ろう講座事業の実施	令和4年度は8事業、参加者延べ人数502人 主な事業 《ふるさと学》 ・上里フォトコンテスト 48作品 ・歴史教室 219人 ・どんど焼きまつり 200人 《行政をもっと知ろう講座》 ・防災（くらし安全課）35人	概ね順調	郷土に対する誇りや郷土を大切に作る機運（郷土愛）の醸成を図る。それと共に知識・技能の地域への還元により幅広い世代に向けた豊かな社会の構築や地域の絆づくりを推進する。	ふるさと学等受講者数	累計2,100人	420人 (累計1,260人)	502人 (累計1,084人)	①大きく達成（数値目標の場合は100%以上）	順調	目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	本部の意見と同じ	継続	「ふるさと学」「行政を知ろう講座」の受講者数の合計
<b>④社会的包摂を目指した文化事業の推進</b>																
52	総合政策課	上里町総合文化センター（ワープ上里）において、音楽・演劇・郷土芸能など鑑賞型のイベントや、和太鼓の体験教室などの参加型のイベントも開催し、伝統芸能の継承に努めている。また地域の方々の文化活動を発表して頂く場としてワープ上里フェスタなどを開催し地域文化活動の推進と地域のコミュニティづくりを推進している。	令和4年度に実施したイベント件数は16件であり、令和3年度（実施件数12件）と比較し1.3倍のイベント実施ができた。また、公民館等の活動団体の利用や、感染症拡大防止策の徹底により、安心安全な施設の提供にも努めたことで、施設の利用人数についても、令和3年度と比較し大幅に増えている。	順調	昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症などを考慮した形で効果的な広報活動やイベントの企画・運営を積極的に推進していく。	文化事業の参加者数	15,600人	15,500人	22,631人	①大きく達成（数値目標の場合は100%以上）	順調	目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	本部の意見と同じ	継続	社協事業（500人/年）+ワープ事業（約15,000人/年）
<b>(4) 誰もが住みやすい都市基盤の整備</b>																
<b>①最適な地域公共交通の整備</b>																
53	総合政策課	上里町地域公共交通活性化協議会で令和2年3月に策定した「上里町地域公共交通網形成計画」にも基づき、利用促進のための各種事業を実施した。また、利用促進や町全体の公共交通ネットワークのあり方をや次期導入形態の検討の一環として、町民ワークショップを開催した。	こむぎつち号の利用者数はコロナの影響を大きく受けたが、回復傾向にある。特に中央ルートは過去最高値になった。町民ワークショップでも活発な議論が行われ、町全体の公共交通ネットワークのあり方をや次期導入形態の検討は順調に進んでいる。	概ね順調	引続き、利用者数増加への取組を実施しつつ、計画に基づき次期導入形態の検討を及び次期計画を策定する。また、一般路線バスの運行支援についても継続的に実施していく。	町営公共交通年間利用者数	22,300人	19,900人	16,017人	②ほぼ達成（数値目標の場合は70%以上100%未満）	概ね順調	今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	本部の意見と同じ	継続	—
<b>②快適な住環境の整備</b>																
<b>ア. 神保原駅周辺地域整備</b>																
54	まちづくり推進課	神保原駅北のまちづくりに向け、神保原駅北まちづくり基本構想を踏まえ、令和5年3月に神保原駅北まちづくり基本計画を策定・公表した。	まちづくり基本計画により、パブリックコメントや住民説明会などにより、町民に対してまちづくりの具体的な方向性を示した。	概ね順調	都市再生整備計画の策定や都市計画決定等により駅北まちづくりを推進する。	駅北整備計画策定	駅北の都市計画決定	報告	報告	②ほぼ達成（数値目標の場合は70%以上100%未満）	概ね順調	今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	本部の意見と同じ	継続	《進捗報告方法》計画策定の進捗報告
<b>イ. 道路の拡幅と雨水対策</b>																
55	道路整備課・上下水道課	《道路整備課》各行政区から頂いた町道整備要望箇所の整備を行うと共に、経年劣化による道路陥没穴などの修繕工事を行った。 《上下水道課》令和2年度に雨水対策の検討を行い、平成8年の雨水管渠基本設計ルートが採用案との結果となり関係各課と協議を行いました。事業化には至っていない。	《道路整備課》道路要望箇所の整備は目標件数を設定し整備を行った。劣化による道路陥没穴は速やかに修繕を行った。なお、三田中通り線は詳細設計を発注し、引き続き道路設計を行う。 《上下水道課》令和6年度以降の事業化に向けて、事業計画の策定や雨水貯留施設の用地の確保等、段階的な準備を進める。	やや不調	《道路整備課》道路要望の整備は毎年度目標を定め整備実施していく。道路陥没穴は職員巡視を強化し発見を行う。三田中通り線は詳細設計を完了し、用地測量、買収を行い、暫定整備を行う。 《上下水道課》関係機関と協議を行いながら雨水対策の実施を推進する。	雨水対策	報告	報告	—	③未達成（数値目標の場合は70%未満）	やや不調	町道で、通学路等、歩行者が多く歩道が未整備の箇所については、安全確保のため計画的に整備を進め報告すること。 また、雨水対策については、事業計画の策定を進め進捗状況を報告すること。	継続	本部の意見と同じ	継続	雨水対策計画の事業化《進捗報告方法》事業化の進捗報告

## 基本目標 4 時代の変化に対応し、安心してらせる地域をつくる

項番	担当課	担当課による自己評価と今後の方針				KPI【重要業績評価指標】					上里町まち・ひと・しごと創生本部		上里町地方創生推進審議会		備考 【KPIの補足など】	
		具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	KPI	最終目標 (R6)	R4 目標値	R4 実績値	達成度	本部評価	本部の意見	取組方針	審議会の意見		取組方針
<b>③将来を見据えた土地利用計画の検討</b>																
56	まちづくり推進課	コンパクトで持続可能な都市構造の実現に向けて、立地適正化計画に記載した施策を関連分野と連携を図りながら推進する。	計画に位置づけられた中心拠点である神保原駅周辺整備を推進するため、神保原駅北まちづくり基本計画等の検討を行った。	概ね順調	神保原駅周辺整備を推進する。居住誘導等に関する施策の実施に向けて、関係課と調整を図る。	立地適正化計画の推進	報告	報告	報告	②ほぼ達成 (数値目標の場合は70%以上100%未満)	概ね順調	今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	本部の意見と同じ	継続	立地適正化計画の推進<<進捗報告方法>>計画の推進の進捗報告 令和4年度改訂によりKPI変更
<b>(5) ICTを活用した住民サービスの向上と安全安心のまちづくり</b>																
<b>①ICTを活用した住民サービスの向上と安全安心のまちづくり</b>																
<b>ア. 身近で住民目線に立った「行政サービス」の拡充</b>																
57	総合政策課	国の「自治体デジタル・トランスフォーメーション(DX)推進計画」に掲げられた重点取組項目の取組を実施している。さらに取組みを加速するため「上里町情報化推進基本計画」を改定し、「上里町DX推進計画」を進めている。	諸証明書コンビニ交付サービス、ペーパーレス会議システム用タブレットの追加、上里町地図情報システム閲覧端末の配置を行った。子育て・介護・被災者支援の27手続のオンライン化を完了した。スマホ教室を開催し延べ68人の参加があった。「上里町自治体DX推進計画」の策定に着手し、「推進体制」「ビジョン」「工程表」を決定した。	概ね順調	「上里町DX推進計画」を策定し、取り組みを推進する。	デジタル活用支援講座参加者数	累計240人	90人 (累計240人)	68人 (累計242人)	②ほぼ達成 (数値目標の場合は70%以上100%未満)	概ね順調	今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	個別検討により出された意見(別紙「個別検討用シート」)により、取り入れられるものについては検討し、更なる事業の発展に努めてほしい。	継続	令和3年度改訂によりKPI変更(スマホの使い方講座への参加者数)
<b>イ. 安全安心でくらしやすい地域社会の構築</b>																
58	総合政策課・くらし安全課・生涯学習課	《総合政策課》 公共施設10か所整備済みの公衆Wi-Fi環境の運用を行っている。 また、国の「自治体デジタル・トランスフォーメーション(DX)推進計画」に掲げられた重点取組項目等を反映する形で情報化推進基本計画を改定し、「上里町DX推進計画」の策定に着手した。 《生涯学習課》 スマホ講座等の実施	《総合政策課》 公共施設10か所に整備済みの公衆Wi-Fi環境の運用を行った。 《生涯学習課》 令和4年度は2事業、参加者延べ人数68人(主な事業) ・スマホ講座 68人	概ね順調	《総合政策課》 情報発信手段の充実に向けてデジタルサイネージの導入を行う。 引き続き、公衆Wi-Fi環境の安全性を確保し、安定的運用を図り、必要に応じて設置箇所拡大を検討する。 《生涯学習課》 高齢者や機器に不慣れな町民等を対象に、デジタルデハイトを生じさせないように推進する。	情報化推進基本計画の推進	報告	報告	報告	②ほぼ達成 (数値目標の場合は70%以上100%未満)	概ね順調	今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	継続	本部の意見と同じ	継続	令和3年度改訂によりKPI変更

第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略【令和4年度進捗状況に対する個別検討用シート】

《本シートの説明》

外部委員で構成する「上里町地方創生推進審議会」では、担当課の取組状況と庁内評価に対し意見を付しています。委員会をより有効的に活用するため、今回は2つの事業について『個別検討』として、検討・協議しました。審議会委員会による意見を担当課が検討することで、各施策事業の更なる推進を目指します。

基本目標4	時代の変化に対応し、安心してらせる地域をつくる		
(2)	生涯を通じた健康づくりの支援		
	《基本的な方向》高齢者を中心に、すべての住民がより長く健康に過ごせるよう、健康づくりを促進する取組を進めていきます。		
①	住民が主役の健康づくり活動の推進	担当課	生涯学習課
イ	「こむぎっち体操」等を活用した健康づくり	(関係課)	

具体的な取組施策	
筋力アップトレーニングや健康ストレッチを融合させた「こむぎっち体操」やラジオ体操を全町に普及させ、町民の運動習慣の向上を図ります。また、大学との連携により設定された「こむぎっちウォーキングコース」、「こむぎっちサーキットトレーニングコース」の利用を促進し、町民が気軽に運動ができる機会の提供を行います。	

令和4年度取組内容と今後の方向性		KPI《重要業績評価指標》	
こむぎっちウォーキングコースについては少しずつではあるが、着実に周知されてきており、今後も積極的に周知していく。また、こむぎっち体操についても、こむぎっちちょっくら体操やラジオ体操等とともに、地域や事業所等での実施を積極的に周知を進めていくなど、体操やウォーキングといった軽スポーツを気軽に継続して実施することで、町民の健康増進・体力向上に繋げていきたい。		健康増進にかかわる体操を実施している事業所数	
実績から見た課題		令和4年度実績値	令和6年度目標値
「こむぎっちウォーキングコース」の整備や「こむぎっち体操」等の普及などを実施したことにより、一定の成果を上げられたと捉えており、今後も引き続き継続して実施していく。一方で、スポーツを活用した健康づくりをより進めていくためには、新たな取組も必要であると考えている。		7事業所	16事業所

審議会委員による意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>こむぎっちウォーキングコースを知らなかったのが、PRが足りないと思う。</li> <li>こむぎっち体操についても、町民のほとんどが知らないのではないかと。</li> <li>多くの町民に体操をしてもらおうという目的であれば、慣れ親しんだラジオ体操も活用した方が良さ。</li> <li>ラジオ体操に比べ、こむぎっち体操は新たに覚えるため難しいと感じる。また、なかなか一人で行えない。</li> <li>公民館で実施する事業の前に健康のためとPRを兼ねてこむぎっち体操等を実施することも良いと思う。</li> <li>何かの活動に参加していない人の取り込みも考えなくてはならない。</li> <li>現在のKPIのように、サーキットコースやウォーキングコースの見える化(KPI設定)も必要で、それにより普及していくのではないかと。</li> </ul>

基本目標4	時代の変化に対応し、安心してらせる地域をつくる		
(5)	ICTを活用した住民サービスの向上と安全安心のまちづくり		
	《基本的な方向》住民の誰もが必要な行政情報にアクセスできるよう、住民向けのICTを活用したサービス、各種講座を充実させるとともに、公共施設の通信環境を整備し、平時にも災害時にも情報が確保できる安全安心なまちづくりを進めていきます。		
①	ICTを活用した住民サービスの向上と安全安心のまちづくり	担当課	総合政策課
ア	身近で住民目線に立った「行政サービス」の拡充	(関係課)	

具体的な取組施策	
誰もがいつでもどこでも迅速に行政情報の入手や行政手続きを行うことができるよう、ホームページやSNSなどのコンテンツを充実させるなど、利便性の向上を図ります。また、住民一人ひとりにあわせた情報をプッシュで提供できる行政アプリ、地域情報を総合掲載する地域ポータルサイト等の立ち上げ等について検討を開始します。住民向けのデジタル活用に関する講座を開催し、誰もが新しい情報社会に適應できるよう、ICT活用を支援します。	

令和4年度取組内容と今後の方向性		KPI《重要業績評価指標》	
令和4年度は、住民の利便性向上に向け、諸証明書のコンビニ交付サービスや行政手続きのオンライン化などを実施しました。また、本町のDXを着実かつ計画的に推進するため、実行計画の策定作業に取り組み、令和5年4月に「上里町DX推進計画」を策定しました。デジタル活用は、各種施策を効率的に実現するための「手段」であり「目的」ではないため、様々な分野において活用を考えていく必要があります。今後は、職員全体のデジタルリテラシーを向上させ、各事業担当課にて、DXの取組を推進できる人材を確保・育成し、業務効率化を図ることで、更なる行政サービスの向上に繋げていきたいと考えます。		デジタル活用支援講座参加者数	
実績から見た課題		令和4年度実績値	令和6年度目標値
デジタル活用は、今や生活の一部となっておりますが、一部の地域や世代間などでその利用に格差(デジタルデバインド)が見受けられます。全ての町民がデジタル活用による恩恵を受けられるようにするためにも、行政として、あらゆるデジタルデバインド対策を講じていくことが必要と考えます。		68人/年(累計242人)	累計240人

審議会委員による意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>若者は得意だが、シニアはこの分野に弱い。シニア向けの講座をもっと増やした方がよいと思う。</li> <li>各種カード機能はスマホに1本化できる。このような講座も良いと思う。</li> <li>各団体や地域の集まりに出向いていただき、普及して欲しい。</li> <li>既存団体をもっと活用しても良いと思う。</li> <li>チャットは便利だが、紙が便利の時もあるので、使い分けが必要。</li> <li>高齢者にとっては、月1回の発行でも広報の方が良いという人がいるため情報の発信には配慮した方が良さ。</li> <li>ICTの活用は、例えば窓口のワンストップサービスなど、行政サービスを効率化するにはとても良い。</li> <li>便利になるため、積極的な取組は必要だが、同時に使用できない人を置き去りにしないような配慮が必要だ。</li> </ul>